

知っているようで知らない！

2026.2.7推しのプレゼン大会

遣唐使の全航海から活躍と苦難の実態に迫る！



梶本 恵三
奈良まほろばソムリエの会

長安城（世界最大の都市）

人口100万人（平城京10万人）

シルクロード（ソグド人主体：ラクダの民）で繁栄

豪族の連合国家から**天皇中心の中央集権的な法治国家**
になるための国際基準(重点3項目)

- ・ 律令制の整備 : **国家が国民を統治する政治体制**
＜次のページで説明＞
- ・ 都(外交施設)の整備 : 政治・経済・文化・外交の中心の首都
- ・ 国史の編纂 : 自分の国の歴史を確かなものにする
＜次のページで説明＞

これらの情報を集めるのが遣唐使・遣隋使の大きな目的だった

律と令について

古代の律令制度は律と令の2つの法体系から成っている

律（りつ）：刑罰の法規(現代の刑法)

令（りょう）：国家の組織や行政全般に関する法規

- ・中央・地方の官僚組織
- ・役人の登用基準・勤務評定・昇進・給与体系
- ・税制(租・庸・調・雑徭・兵役など)
- ・土地(班田収受の法など)
- ・身分制度
- ・婚姻に関する規定
- ・軍事制度
- ・その他

遣唐使は

これらの情報

を集めるのが

ミッション

国史の編纂が重要な理由

隋や唐に対して、ちゃんとした歴史書を持ってないと

「お前らは自分の国の歴史も知らない野蛮な国」と決めつけられて

「お前たちの住んでる国は、隋や唐の果てにあるからうちの国なんだ」

と取り込まれてしまう。

隋や唐にとって、国の歴史書は、覇権維持のための武器になっていた。

従って、隋や唐が倭国（日本）をどう歴史書に記録していたのかは

超極秘事項になっていた（唐は自分の基準で判断するのがやっかい!）

現在も沖縄は中国の領土だと言い始めている！

そして、遣唐使は、重点3項目以外にも

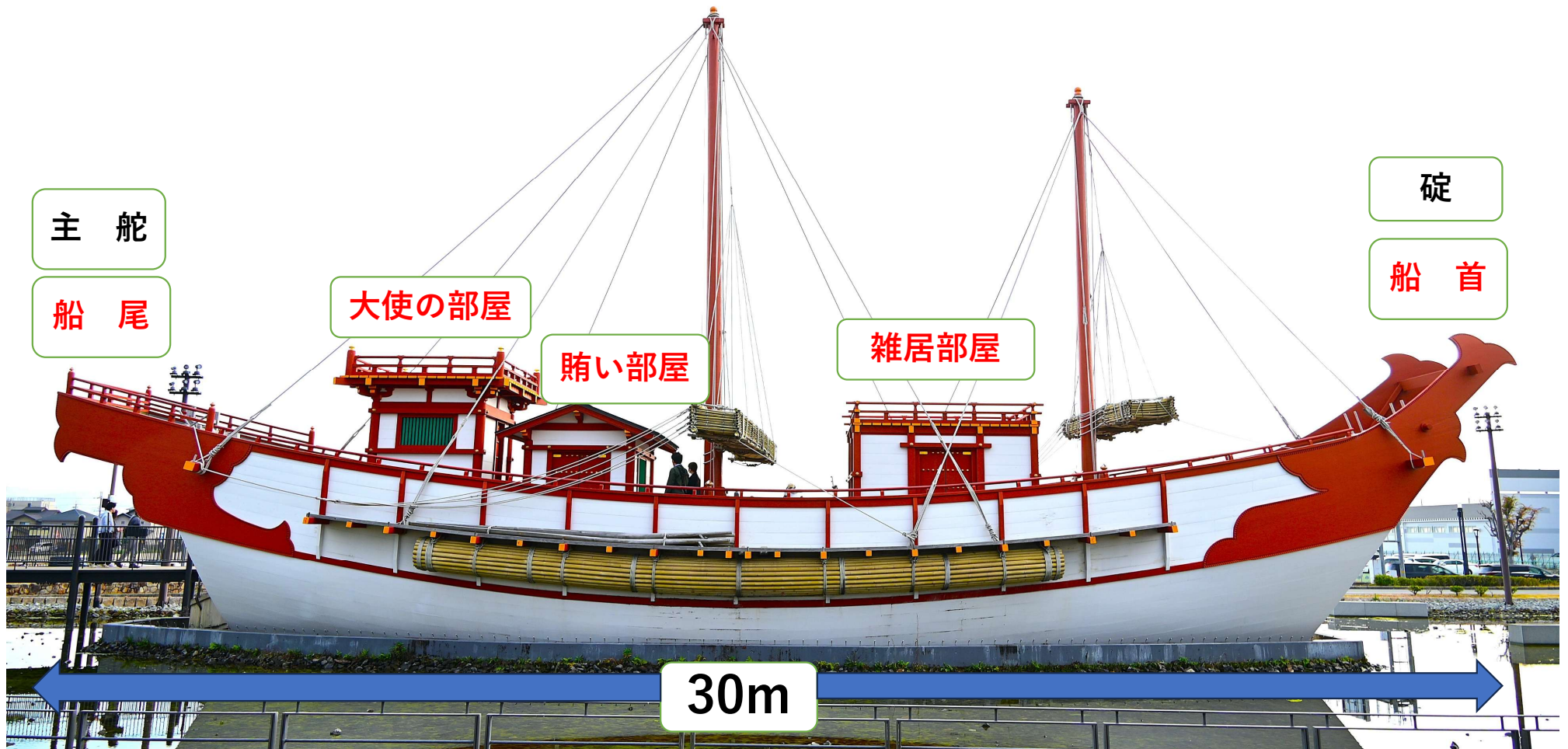
仏教・建築技術・音楽・儒学・文学・漢詩文

美術工芸・都市計画・医術など

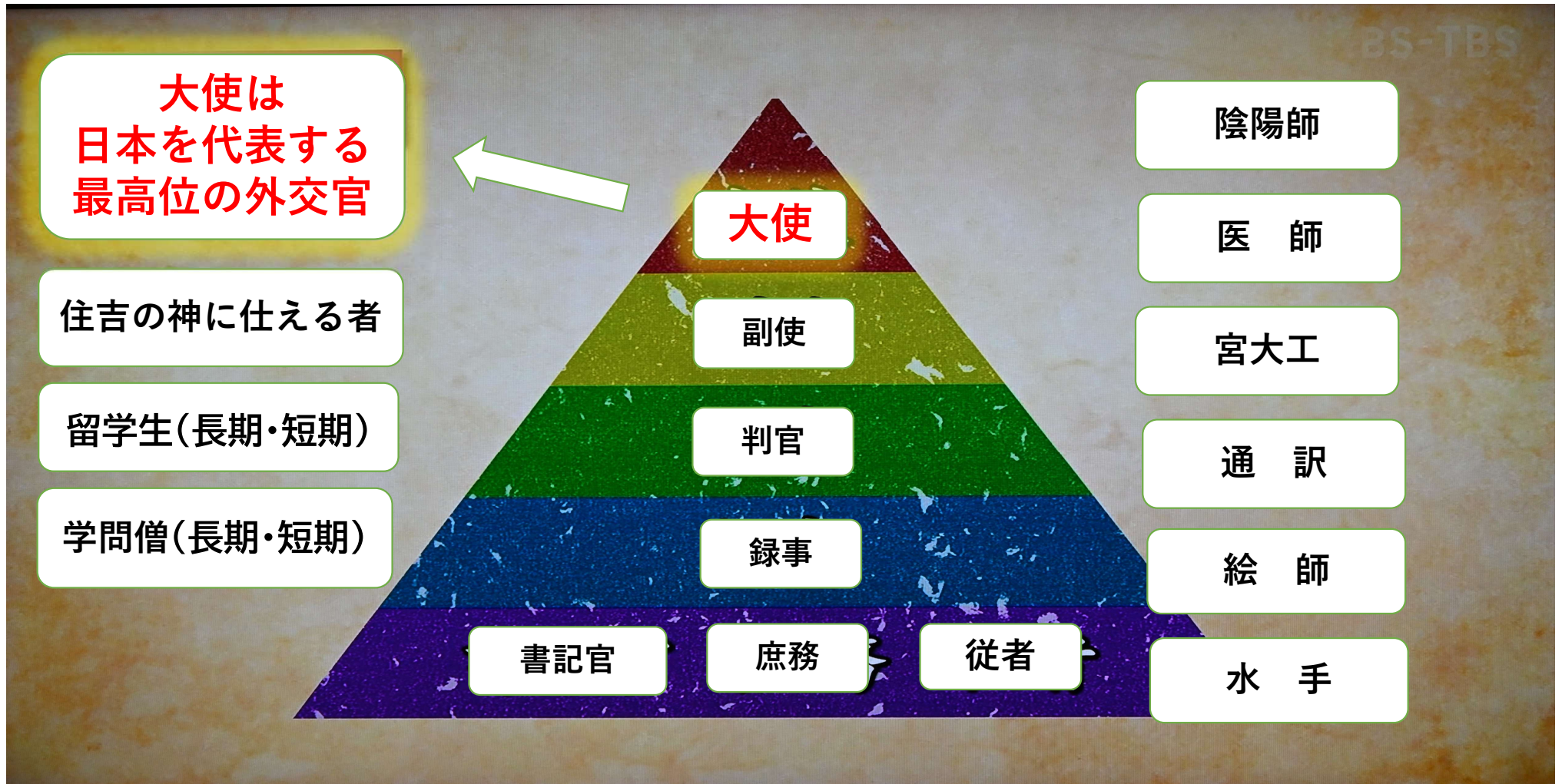
あらゆることを学ぶため派遣された

特に、仏教は多くの経典を持ち帰った！

遣唐使船の構造



使節の構成員



長期滞在者と短期滞在者

長期滞在者

15～20年滞在

次回の遣唐使で帰国

留学生

学問僧

政治制度・文化

仏教の教義・経典

短期滞在者

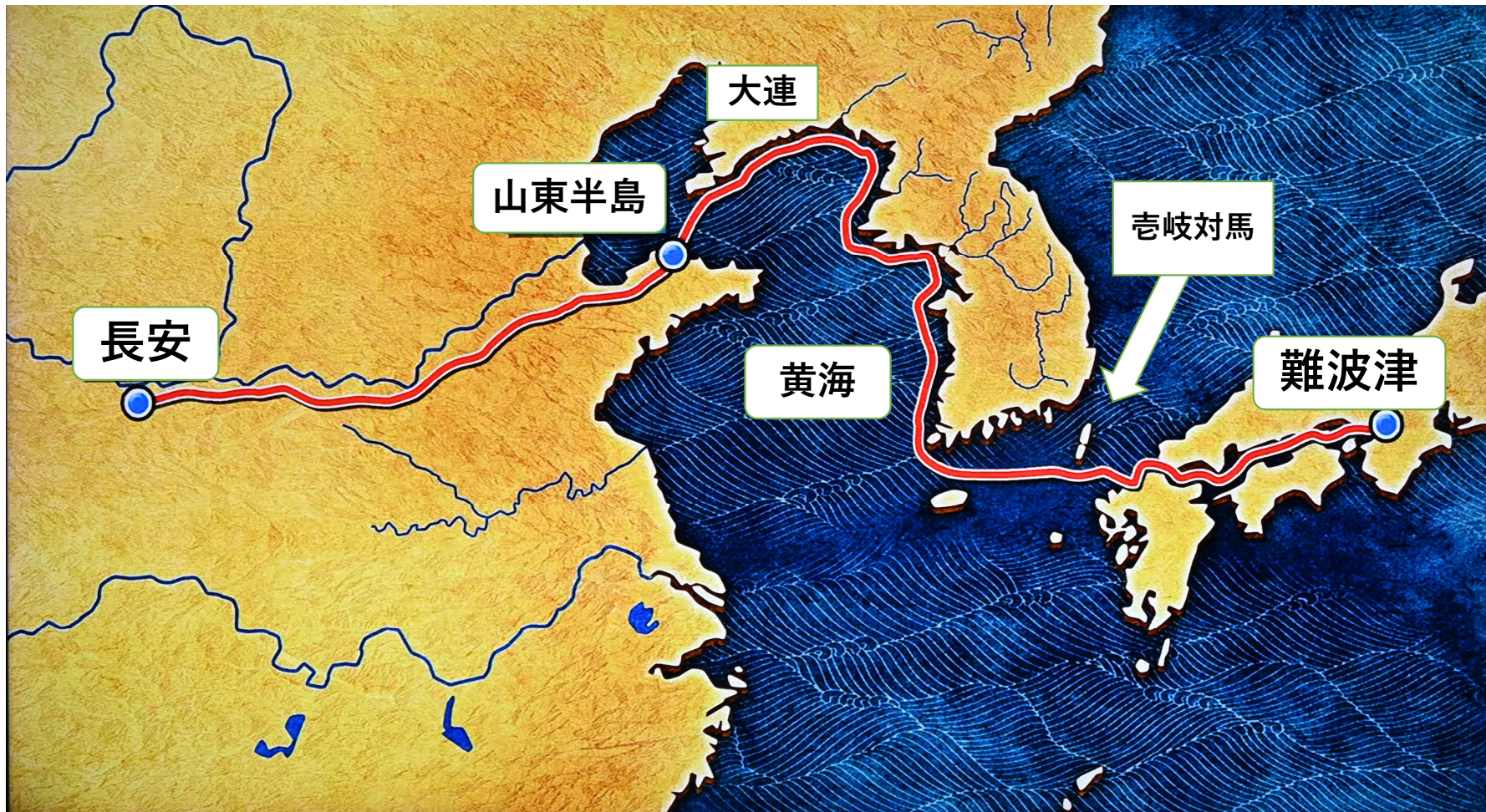
1～2年滞在

来た遣唐使と帰国

請益生

還学僧

北路（遣隋使～第6回遣唐使まで）



南 路（第7回遣唐使から使う）



長安の朝賀(正月) に間に合うためには、
逆算で8月から9月に**出航**するのが最適だった



全15回の遣唐使の層別

回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	第1期				第2期		第3期(最盛期)					第4期 (衰退期)			
出発年	630	653	654	659	665	669	702	717	733	752	759	777	780	804	838
天皇	舒明	舒明	孝徳	斉明	天智	天智	文武	元正	聖武	孝謙	淳仁	光仁	光仁	桓武	仁明
乗船者		定恵 粟田真人 道昭	高向玄理		白村江の敗戦処理		粟田真人が唐と国交回復	阿倍仲麻呂 吉備真備		鑑真来日 藤原清河				空海・最澄	

894

菅原道真 遣唐使中止

第1期 遣唐使 (遣隋使の延長 小規模)

- ・ 隋の滅亡後、新しい国家を建設しつつある唐に対して
日本の存在をいち早くアピールして今後の外交を有利進めようとした

回	出発	帰国	航路	内 容
第1回	630	632	北路	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>犬上御田耜</u>は最後の遣隋使で最初の遣唐使 ・ 多数の隋の時代に派遣した有能な人材を連れ帰る
第2回	653	654	北路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2船で出発 1船に120人・1船失敗 (120人死亡) 1船成功 ・ 第1船には定恵・道昭・粟田真人らが乗船
第3回	654	655	北路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大化の改新から10年を経て中大兄皇子を中心とする朝廷が唐の政治制度や律令制度を急いで学ぶ必要があった
第4回	659	661	北路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 船は2船 120人×2船 ・ 1船は無事到着 1船は南海の島に漂着後、大部分の乗員が殺されるが残った5人が船を盗みその後、唐に到着

第2期 遣唐使（白村江の惨敗後の敗戦処理期間）

- この時期は唐が倭国(日本)に侵攻を考えていた
- 唐の来日した威圧的な軍人に「饗応」「物を与えて」必死の攻防を図った
- この期の遣唐使は、唐の先進的情報を持ち帰る通常の遣唐使とは異なる
- 唐と正式な国交回復はされていない時期

回	出発	帰国	航路	内容
第5回	665	667	北路	・白村江の戦いで勝った唐からの使者を送っていった
第6回	669	不明	北路	・唐が高句麗を平定(668年)に平定したのを祝うご機嫌取り

第3期 遣唐使（最盛期・規模大）

第7回遣唐使の活躍で唐と国交回復に成功したのち遣唐使の全盛期を迎える
 しかし、**第10回遣唐使でピークを迎え**転機が訪れ雲行きが怪しくなってゆく

回	出発	帰国	航路	内 容
第7回	702	704	南路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国交を回復させ「日本」の称号も認めさせた。執節使栗田真人
第8回	717	718	南路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遣唐大使は多治比県守(たじひのあがたもり：兄) 往復犠牲者なし ・ 使節団が倍増の557人 船は4隻×139人 以降「四ツの船」 ・ 長期留学生：阿倍仲麻呂・吉備真備・井真成、留学僧：玄坊
第9回	733	735	南路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遣唐大使は多治比広成(たじひのひろなり：弟) ・ 唐の皇帝の玄宗が遣唐使を厚遇してくれた<次のページで説明> ・ 第1船吉備真備と玄坊帰国・第2船で菩提遷那ら高僧が来日 ・ 第3船ベトナムに表着115名死ぬ・平群広成6年間グレートジャーニー
第10回	752	753	南路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大仏開眼の年。光明皇后の甥の藤原清河が遣唐大使 ・ 鑑真来日が最大任務(この為大宰府に左遷中の吉備真備が遣唐副使に) ・ 鑑真は来日成功・阿倍仲麻呂ベトナムに漂着し生涯日本に帰れず ・ 最高の盛り上がりから地獄へ<次のページで説明>
第11回	759	761	南路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藤原清河を帰国させる任務だったが失敗

唐の皇帝玄宗の遣唐使に対する姿勢



712年～756年

唐の高級官僚登用試験の科挙に合格した
阿倍仲麻呂を高く評価し側近として寵愛した

日本の遣唐使には、惜しみなく
唐の知識文物を提供した

総じて、唐の皇帝は遣唐使を丁重に受け入れ
先進文化を伝えることで友好関係を
維持しようとした

第10回遣唐大使の藤原清河は天国から地獄

遣唐使の転機の回

天 国

地 獄

遣唐大使 藤原清河

光明皇后の甥
(兄の房前の四男)

出発 752年 5月出発

大仏開眼 4月
最高の盛り上がり

復 路 753年

阿倍仲麻呂と鑑真乗船

冬の季節風に流される

遣唐副使 吉備真備

4船で500人の大船団



往路は順調

玄宗皇帝に厚遇



阿倍仲麻呂と藤原清河
はベトナムへ漂着
結局、日本に帰れず

鑑真は海南島に漂着するが
何とか日本に到達する

安史の乱(755年～763年)
■安禄山(ソグド系武将)の乱■

玄宗皇帝が寵愛した楊貴妃とその一族に

政治を任せっきりにして玄宗自身が

政治に無関心になったために起こった大規模な反乱

安史の乱による唐の衰退と混乱を目の当たりにして
唐の政治システムも完全ではないと認識するようになり
日本独自の国家運営の在り方を模索するようになった

ソグド人に対する警戒からシルクロードも衰退していった

残念ながら、唐の皇帝玄宗のその後は無残



楊貴妃



玄宗は楊貴妃に夢中になっている間に安史の乱が起こり唐を脱出。楊貴妃は殺される

第4期 遣唐使(衰退期)

天智天皇系の光仁天皇・桓武天皇に移り変わった時代

唐では、安史の乱(755年～763年)以降、政情不安と財政難が続く

遣唐使は、犠牲者も増え意欲低下で衰退の方向だが空海の登場で新時代の兆し

回	出発	帰国	航路	内容
第12回	777	778	南路	・ 遣唐使高官の意欲低下 ・ 第一船が63人の犠牲 遣唐使の危険な航海の代表にされる
第13回	780	781	南路	・ 唐の送使団を送還する任務
第14回	804	805	南路	・ 平安京に遷都して8年してより充実した唐の情報を吸収する意図
第15回	838	839	南路	・ 四隻全損 ・ 100余名が犠牲

白村江で唐に大敗して国交断絶になっていたのに
どうやって国交回復したのか？

第6回と第7回の間33年間には何があったのか？

そこには
大活躍したスーパー遣唐使がいた！

唐と国交断絶～国交回復～最盛期までの流れ



白村江の戦いで大敗

敗戦処理

壬申の乱

国内律令体制整備

女帝 則天武后
690～705

唐との国交回復プロジェクト
持統朝・文武朝は国交回復悲願
藤原不比等・粟田真人など

粟田真人が則天武后と対決

国交回復

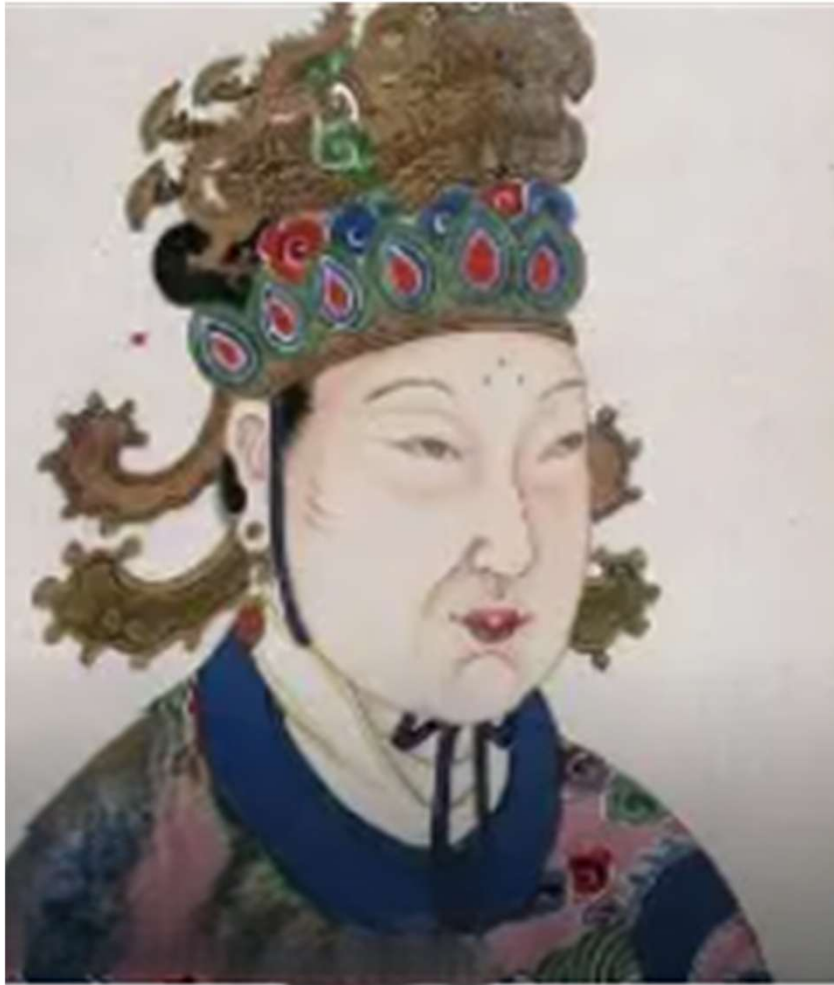
阿倍仲麻呂

吉備真備

鑑真来日

藤原清河

則天武后



白村江の戦いでは夫の皇帝高宗の後ろから影響を及ぼしていた可能性あり

ライバルの王皇后の手足を切断して酒壺に投げ込むという残忍な方法で殺害したり自分の子供も処刑する残忍な人

唐の皇帝の側室から中国史上唯一の女性皇帝になった人

超難易度の高い国交回復交渉の交渉役は？

白村江の戦いを仕掛けて大敗した日本が
白村江の戦いを指揮して大勝した残虐な則天武后本人に
国交回復を認めさせるという超難易度の高い交渉だった

交渉役には、超エースが求められた！

そして選ばれたのは
スーパー遣唐使 粟田真人（かなりのイケメン）

西島 秀俊



対決した結果：則天武后が粟田真人を**大絶賛**

唐書には、則天武后が真人のことを

「粟田真人は、唐の宰相・尚書省の長官の尚書のようにあり

進徳冠を冠り、頂きに花4本を挿し、紫の袍(ほう)に絹の帯。

真人は良く学び文を書き**その容姿は温雅で偉容**があった」

と絶賛した

則天武后は粟田真人を丁重にもてなし宴を開き官職をつけて帰国させた

その結果、正式に国交回復に成功

則天武后が粟田真人を絶賛したことで
日本と唐の国交が正式に回復した。

また、**日本国**という国号と**大和朝廷**を日本の正式な政権
であることを則天武后が**正式に承認**した。



新たに日本国としてのスタートを切った！

と、ここまでは良かったのだが！

真人は、帰国したら至急、文武天皇と藤原不比等に

報告しなければいけないことがあった！

それは・・・

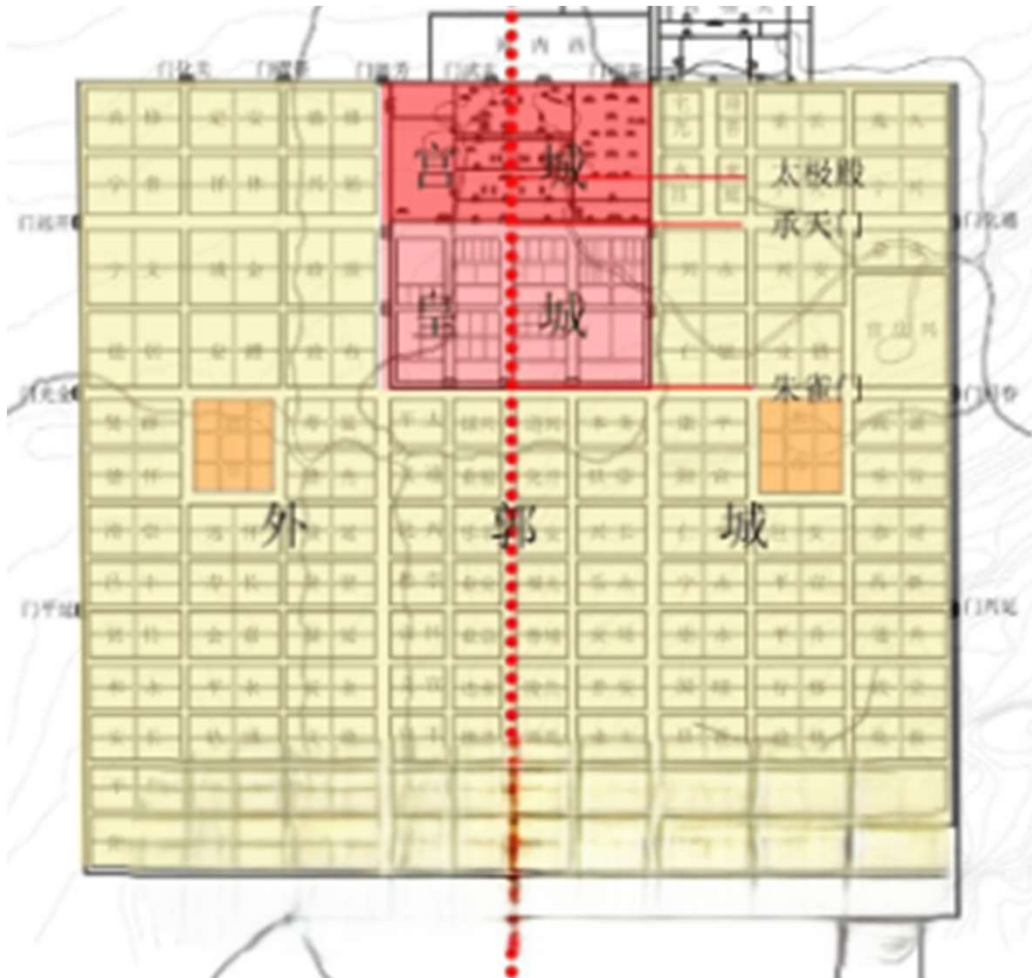
藤原京の形状が長安と大きく異なっていた！

長安では、大極殿は、都の北の中央に置かれる「北闕型」だが
藤原京は、大極殿が都の中央に位置する「中央宮闕型」になっている

これでは、唐から来た人がこれを見るとやっぱり

日本は大口を叩く蛮族と見られて天皇の権威も失墜してしまう

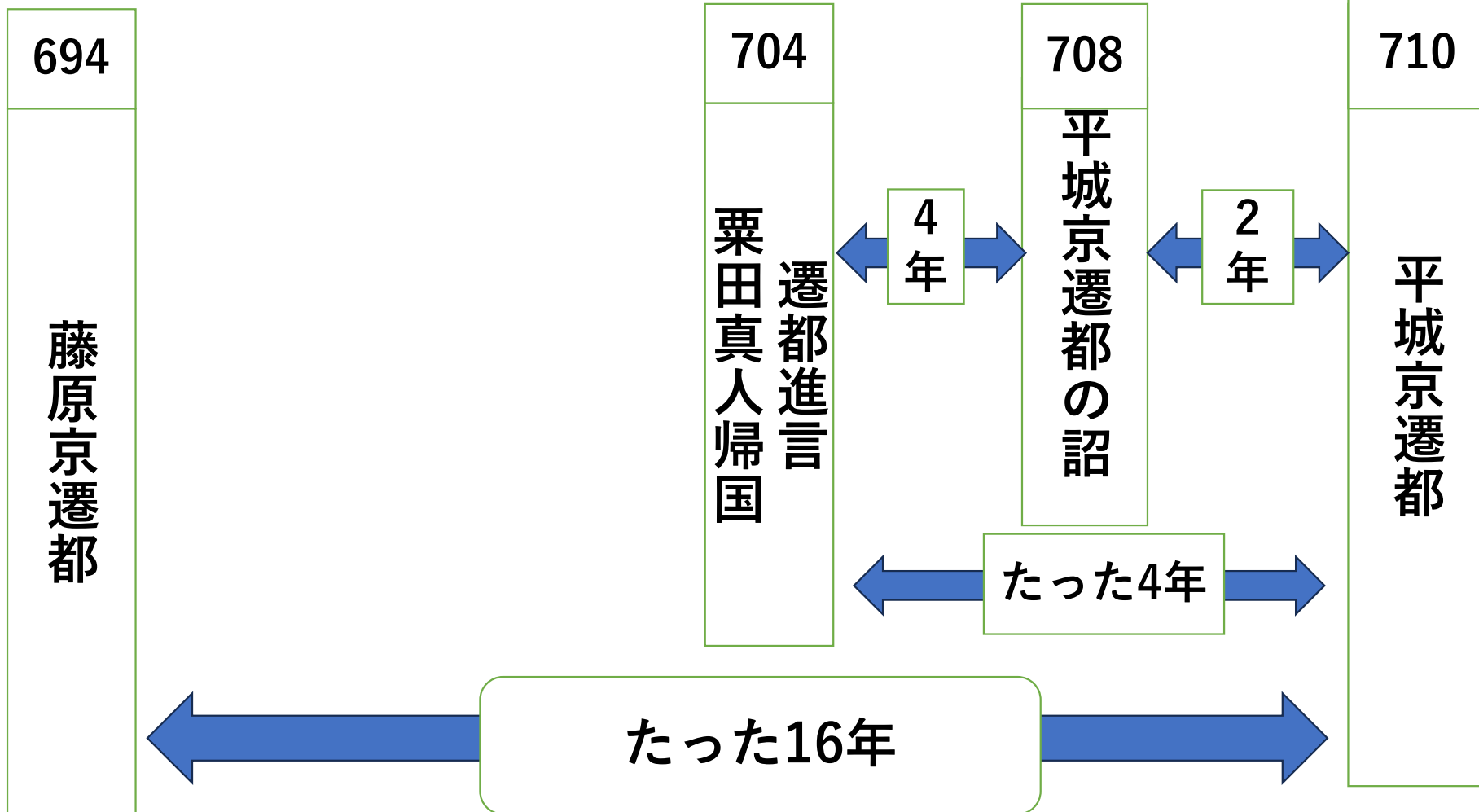
長安宮(北闕型：北側に宮殿を配置)



藤原京 (中央宮闕型：中央に宮殿を配置)



粟田真人が帰国して遷都の必要性を訴えてから平城京遷都まで



686	690	697	702	717	733	753
			第7回遣唐使	第8回遣唐使	第9回遣唐使	第10回遣唐使
天武天皇	持統	持統太上天皇 文武天皇	文武	元明天皇 元正	聖武	孝謙

686 天武天皇崩御

686 大津皇子処刑

689 草壁皇子薨去

690 持統天皇即位

690 則天武后即位

694 藤原京遷都

697 文武天皇即位

第7回遣唐使
で則天武后と
国交回復交渉
をせよ！

勅命

唐との国交回復プロジェクト
藤原不比等・粟田真人

律令制 : 大宝律令完成急げ
都の整備 : 藤原京完成済
国史 : 日本書記編集急げ
想定問答対応

701 大宝律令完成

702 大宝律令を携えて唐へ則天武后対決

702 持統太上天崩御 唐と正式に国交回復

704 粟田真人帰国 平城京遷都進言

707 文武天皇崩御

705 則天武后崩御

708 平城京遷都の詔

710 平城京遷都

712 古事記完成

718 養老律令完成

719 真人死去

720 日本書記完成

720 藤原不比等死去

阿倍仲麻呂

歴史書をスパイ

唐の歴史書に日本は
どう書かれているか

小説：ふりさけ見れば

770 阿倍仲麻呂死去

遣唐使と唐の栄枯盛衰は同じ流れ

回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
		第1期			第2期		第3期(最盛期)				第4期(衰退期)				
出発年	630	653	654	659	665	669	702	717	733	752	759	777	780	804	838
天皇	舒明	舒明	孝徳	斉明	天智	天智	文武	元正	聖武	孝謙	淳仁	光仁	光仁	桓武	仁明
	初唐 (618~711)						盛唐 (712-756)				中唐 (766~836年)				
唐							玄宗皇帝の時代							空海最澄	
										安史の乱 755~763					

894

菅原道真
遣唐使中止

覚えておきたい遣唐使

1	栗田 真人	あわたのまひと	イケメンNO1
2	藤原 清河	ふじわらのきよかわ	悲劇の貴公子
3	阿倍 仲麻呂	あべのなかまる	悲劇のスーパーエリート
4	犬上 御田歙	いぬがみのみたすき	最後の遣隋使で最初の遣唐使
5	多治比 真人県守	たじひのまひとあがたもり	往復で犠牲者0の快挙達成
6	吉備真備と玄昉	きびのまきび&げんぼう	2人一緒に唐に留学
7	空海・最澄	くうかい・さいちょう	空海は真言宗・最澄は天台宗
8	高向 玄理	たかむこのくろまる	遣隋使・遣新羅使・遣唐使
9	定 恵	じょうえ	父・藤原鎌足 弟・藤原不比等
10	山上憶良	やまのえのうえのおくら	阿倍仲麻呂と並ぶ知識人

結論としては

200年余りの間に日本から出航した遣唐使船は
36隻だがその内、26隻は結果的に帰ってきているので

70%は成功してるといえる。

これを、人員で見ると80%が帰国を

果たしたことになる